



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 026 Apr 11, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●米国産牛肉輸入再開状況: エジプト、台湾、韓国

エジプトは、30ヵ月齢牛由来の米国産牛肉・牛肉製品の輸入解禁を決定した。1年3ヵ月ぶりの再開となる。同国の2003年度牛肉・牛肉製品の輸入実績は3,000万ドルで、レバーがその65%を占める。小規模輸入国ではあるが、30ヵ月齢を基準とした再開の意義は大きい。

台湾は2003年度輸入総額が7,650万ドルで、米国にとって6番目の牛肉貿易相手国であったが、同じく30ヵ月齢牛由来のボンレスミートの輸入を、暫定的ながらもまもなく解禁する模様。

一方、メキシコ、日本に次いで3番目の牛肉貿易相手国である韓国は、米国と専門家を合わせた話し合いを続けてきたが、安全性が実証されるまで解禁はないと明言している。輸入再開には、日本と同様の要件に加え、韓国独自の条件を呈示するといわれている。

米国農務省(USDA)は、引き続き科学的根拠による交渉を進め、同省の牛肉輸出証明(BEV)プログラムの要件を満たした解禁国を広げ、BSE発生以前の貿易レベルの早期復活を期待している。

※2005年3月28日 Cattle Buyers Weekly

●米国消費者団体、カナダ牛輸入解禁を支持

これまで政府のBSE対策を批判してきた米国の消費者団体、公益科学センター(CSPI)は、ここに来て「カナダ産生体牛の輸入を解禁しても感染リスクは極めて小さく、食品の安全性に重大な影響はない」と表明している。同団体は、一連の裁判や論争は経済・貿易問題であり、生産者団体が主張する「国民の健康を守る」という反対理由は建前で、本音は自分たちの利益保護だと指摘。公衆衛生や食品の安全性を守るには、むしろ家畜個体識別制度の義務化や、特定部位除去・反芻動物由来飼料禁止といったセーフガードの徹底・強化が重要だと述べている。

※2005年3月28日 Cattle Buyers Weekly

●USDA、BSE研究費増額

米国農務省(USDA) ジョハンス農務長官は、BSE関連研究費を約200万ドル増額し、また食品安全の研究・対応ネットワーク設立のため、既に17の大学に総額500万ドルを授与したと発表した。学術機関と共同のBSE研究活動と、食品関連の疾病発生対応を強化するのが狙い。既にブッシュ大統領が提出している2006年度BSE研究予算案に上積みされ、総額は730万ドル(2005年度比155%)になる。



BSE関連ニュース

主な対象はBSE関連のプロジェクト・施設で、英国の獣医学研究所 (VLA) とスペインの大学との共同研究 (米国型・欧州型BSE病原体の生態比較)、アイオワ州に建設中の農業調査局国立動物疾病センター (肉牛・動物のBSE感染を長期間研究)、現在計画中の食品安全研究対応ネットワーク (大腸菌・サルモネラ菌研究-18大学の専門家約50名参加) 等が含まれている。

※2005年3月28日 meatingplace.com

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (3月21日～25日)

- **週間と畜頭数** : 57.2万頭 (前年比7.1%減)。
- **肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)** :
 主要5市場では平均90.21ドル (前週比4.71ドル安)。
 枝肉価格は平均146.20ドル (同1.70ドル安)。
- **牛肉価格** : 歩留まり等級3 (YG3) のチョイスは149.50ドル (前週比6.86ドル安)。YG2～3のセレクトは141.63ドル (同7.93ドル安)。

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	3月21日～3月25日
400～500	134.00～154.50
500～600	119.00～132.50
600～700	112.00～127.00
700～800	104.00～115.50
800～1000	97.00～107.00

※2005年3月25日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (3月21日～25日)

- **週間と畜頭数** : 195.5万頭 (前年比1.8%増)
- **肉豚の現金取引価格** : 主要市場の価格は先週比で変動なし。

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

185ポンド物 (約83.5kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	3月25日
ベオリア	45.00
セントポール	N/A
スーフォールズ	N/A
ミズーリ東部	45.75

	3月25日
東部トウモロコシ地帯	64.09
西部トウモロコシ地帯	65.27
アイオワ・ミネソタ	65.33
全 国	65.18

※2005年3月25日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

セーフティー関連ニュース

● **米国消費者、価格より安全性優先**

食品安全協会の依頼でカンサス州立大学が実施した消費者調査によると、消費者の大半は、価格が高くて、病原菌を殺すために電子照射や蒸気殺菌した食肉を購入すると答えている。

調査では、コロラド、ネブラスカ、カンサス、オクラホマ、アイオワ、ミズリー、アーカンソー、ワイオミング州の消費者にアンケートを郵送 (有効回答715通)。1ポンド当たり\$1.69の普通の食肉製品と、同価格または10～40セント価格が高い、殺菌処理をした製品のどちらを購入するか質問した。

約8割が「同価格であれば殺菌処理の製品を選ぶ」、55%が「価格が高くて殺菌処理を選ぶ」と回答した。また依然として電子照射への不安があり、蒸気殺菌のほうが抵抗が少なかった。処理済み製品を選んだ消費者では、電子照射の効果評価と、付加価値分の価格上昇の受容度が高く、平均で1ポンド当たり22～26セントの割り増しを容認。処理済み製品を選ぶ傾向は、外食で挽肉摂取量が多い消費者や女性に多く、調理や取り扱いに注意すればリスク軽減ができると知っている層では少ない。子供のいる世帯は安全な製品を選ぶ傾向があったが、子供の有無は高価格の受容度に影響はなかった。

※2005年3月15日 meatnews.com



業界ニュース

●USMEF、上半期定期総会をワシントンDCで開催

米国食肉輸出連合会 (USMEF) の上半期総会は、5月25～27日、ワシントンDCのオムニ・ショーハム ホテルで開催される。今回は、ジョハnz農務長官やジョンソン米国WTO代表らによるスピーチが予定されているほか、海外事務所代表スタッフによるBSEに関連した海外市場活動報告がある。また、動植物検疫局 (APHIS) や食品安全検査局 (AFIS) の担当官による、BSE対策の現状説明と質疑応答がプログラムに組まれている。

(詳細は弊連合会本部総会担当者 Ms. Jackie Burbin (jburbin@usmef.org) に直接お問い合わせいただくか、本部ホームページ (<http://www.usmef.org>) のBOD (総会) 項目でご確認ください)

※2005年4月6日 USMEFレポート

イベント情報

●USMEF、アメリカン・ポークイベント開催

米国食肉輸出連合会 (USMEF) は、ABC朝日放送主催のプロジェクト「ガラスの地球を救え!スペシャル『遊ぼう 水と太陽と』」に協賛し、2005年4月29日 (金・祝) に、大阪府の梅田スカイビル「ワンダースクエア」にてイベントを開催します。会場では、和洋中の著名なシェフによるアメリカン・ポークを使ったスペシャルレシピの発表や試食会など、様々なイベントを行います。同イベントの様子はABC朝日放送の特別番組「ガラスの地球を救え!スペシャル『遊ぼう 水と太陽と』」(2005年4月29日 第一部9:30～11:35 第二部14:00～17:54) で放送される予定です。

イベントに併せ2005年5月14日 (土)～15日 (日)、関西・中国エリアのイトーヨーカドー11店舗にて、アメリカン・ポークを使ったお料理の試食会やメニューカードを配布するフェアを開催。

また、2005年5月～6月にかけて大阪の人気飲食店「美食酒家ちゃんと」7店舗および「韓式炉端いふう」1店舗とタイアップし、アメリカン・ポークを使用した限定メニューを提供。

これら一連のイベントは「Saita」(2005年5月12日発売) に掲載・紹介されます。

●USMEF、第8回「FABEX 2005」に出展

米国食肉輸出連合会 (USMEF) は惣菜デリカ・弁当・外食専門展「FABEX 2005」(主催:日本食糧新聞社)に出展します。

堅調な伸びを続ける中食産業と外食産業をあわせた市場は、2002年度には32兆円を超える規模に達しています。USMEFは、アメリカン・ポークとポーク加工品を中心に惣菜デリカ、外食向けに試食を含めた商品提案を行います。出展するパッカーは以下の通り。

サラ・リー/ジョンソンビル・ソーセージ/タイソン・フーズ/ファームランド・トレーディング/ブルボーイ

■開催日:2005年4月13日 (水)～15日 (金) 10:00～17:00 (最終日は16:30迄)

■場所:東京ビックサイト 東2・3ホール USMEFブース:東2ホール 小間番号152

This project partially funded by US beef producers.